



高橋余一の「生活絵巻」



22 のこぎりの目立て

農閑期は山へ入り、木を切り、たき物作りをしました。絵巻には、木を切るときに使うのこぎりの手入れをしている目立ての様子が描かれています。足で柄をはさみ、歯の一つ一つにやすりをかけて、手入れをします。また、柴を刈ったり（あえ切り）、落ち葉をかいいたり（ごかき）もしました。まきは風通しのよい軒下で、柴や落ち葉は乾燥した屋根裏で保管しました。

（上の絵）

農閑期の冬になるとニワカ山師で山の立木を共同で入れ、買い取り薪造りを盛んにやった

のこぎり
鋸の目立ても自分でやる

ヨキ
ナタ

弁当や山師の道具を入れる
るビフ

持ちよる縄束

竹の筒で

ヤスリを入れる

桐の木で作ったせん